

エトヴェシュ・ロラード大学

1. 一般情報

1-1. 名称

Eötvös Loránd Tudományegyetem (ELTE) Bölcsészettudományi Kar Japán Tanszék
エトヴェシュ・ロラード大学（通称ブダペスト大学、略称エルテ）
人文学部日本学科

1-2. 住所、電話、FAX、URL

住所 Budapest, Múzeum krt.4/B

電話 (+36 1) 411 6500

URL <http://www.btk.elte.hu>

(<http://www.elte.hu/karok>、<http://www.btk.elte.hu/intezetek> 参照)

1-3. 組織構成

エトヴェシュ・ロラード大学

ト・法学部

ト・パールツィ・グスターヴ医療介護教育学部

ト・情報学部

ト・教育・心理学部

ト・教員養成学部

ト・社会学部

ト・自然科学部

ト・人文学部

ト・英米学研究所

ト・哲学研究所

ト・ゲルマン諸語研究所

ト・図書・情報学研究所

ト・ハンガリー文学・文化研究所

ト・ハンガリー語・フィン・ウゴル語族研究所

ト・芸術論・メディア学研究所

ト・美術史研究所

ト・民俗学研究所

ト・東アジア研究所

ト・日本学科

ト・中央アジア学科

- ┆・中国学科
- ┆・韓国学科
- ┆・仏教学研究センター
- ┆・東アジア研究所図書館
- ┆中近東研究所
- ┆・古代学研究所
- ┆・考古学研究所
- ┆・ロマンス諸語研究所
- ┆・スラブ・バルト研究所
- ┆・歴史学研究所

1-4. 設立年月日と沿革

- 1635：パーズマーニ大学（現エルテ）がナジソンバト（現スロバキア領）に設立される。
- 1777：ブダ地区（ブダペスト）へ移転。
- 1923：文学部に「東洋言語と文学科」が創設され日本語講座も開設。
- 1946：戦後の体制変化により日本学の教育は中断する。
- 1959：日本語の語学講座が復活する。
- 1986：日本学専攻が「中国・東アジア学科」内に設置される。
小松智光基金が学科内に設置され以後財政支援を受ける。
- 1996：日本学専攻科として独立。
- 2006：ボローニャ制度（3・2・2）へ移行、旧システムと並行しての授業。
- 2007：新制度の博士課程開始。
- 2008：独立した日本学科となる。
- 2011：新制度での修士課程開始。

1-5. 日本学科、あるいは日本学・日本語コース設置の目的

- 学士：日本への関心が高い中、1 から語学を勉強して一定のレベルを習得し、三年間である程度日本語と日本のことについて知識を持った人材を育成する。
- 修士：日本関係の専門家として広い分野で活躍する人材を育てること。
- 博士：日本学研究者の育成

2. 機関に関する詳細情報

2-1. 教育課程

高等教育機関（University）

弊学は特に「研究大学」という位置づけ、意義が強調されている。

2-2. スクールカレンダー

秋学期（9～1月）と春学期（2～6月）の2学期制
（最後の一か月は概ね試験期間）

2-3. 日本学専攻の方法

主専攻と副科。東洋学科に籍を置く学生は副科として日本学科の受講も可能。
（ただし、副科として受講した場合も、語学に関しては主専攻と同じ進度の授業を受け、卒業時は同じ日本語能力を求められる。）

2-4. 日本学科、あるいは日本学・日本語コースのカリキュラム

学士課程

I. 一般基礎科目

A) 人文学部における一般教養（8単位）

哲学史、文章・筆記・出版物

B) 古代・東洋文献学における共通コース（20単位）

1) 基礎論・基礎知識（6単位）

言語学入門、文学入門

2) 東アジア専攻における古代・東洋文化通覧（14単位）

比較宗教史、東アジアの宗教、古代・東洋美術史、東アジア美術史

II. 専門科目

A) 東洋言語文化学士課程共通コース（20単位）

東アジア史1・2、東アジア美術史、東アジアの言語と表記、東アジアの宗教2

B) 選択した東洋言語文化に関する専門知識（68単位）

（日本学科）

現代日本語1～15、日本語基礎試験、日本語講読1～4、日本語記述文法、日本の文化と社会1・2、日本史1・2、日本文学、卒業論文のためのコンサルテーション、古文入門1・2、古文講読1・2

C) 副科の単位（50単位）

III. 自由科目（10単位）

エルテ教育心理学部の授業も選択可能。

IV. 卒業論文と卒業試験（4単位）

修士課程

I. 基礎知識（10単位）

日本語 1、漢文講読 1、日本語学 1、日本の歴史と社会 1

II. 専門必修科目 (46 単位)

日本語 2～4、漢文講読 2、講読 3・4、日本語学 2、日本の歴史と社会 2、古典文法と読解 1・2、翻訳と通訳 1・2、中国語 1・2、アジアと世界における日本 1・2、現代文学と翻訳 1・2、日本経済 1・2

III. 専門選択科目 (28 単位)

日本美術史 1・2、思想史と宗教 1・2、教育と社会 1・2、歴史学の諸問題 1・2、文化と民俗学 1・2、修士論文ゼミ 1・2

IV. 自由科目 (16 単位)

V. 修士論文 (20 単位)

博士課程

古典中国語 1・2、漢文 1・2、日本語史、日本語の史料、日本語言語学、日本語学ゼミ、日本の文学と文化 (資料分析) 1・2、日本史と思想史における史料分析 1・2、論文指導 1～4

日本語コースの各授業使用教科書

ここ 2 年の間に使われたものを全て記載した。

学年	使用教科書
一年生	前期 『げんき』 The Japan Times 後期 『げんき』 The Japan Times
二年生	前期 『とびら』 『中上級学習者向け日本語教材 日本文化を読む』 後期 『中・上級者のための速読の日本語』 『中級日本語文法要点整理ポイント 20』 『ここが大切 留学生のための文章表現のルール』 各自が選択した本や論文 論文執筆に関する一般書から数か所引用して使用
三年生	前期 各自が選択した本や論文 教師が作成した資料 『ここが大切 留学生のための文章表現のルール』 『大学・大学院 留学生の日本語 読解編』

	後期 各自が選択した本や論文 教師が作成した資料 『大学・大学院 留学生の日本語 論文読解編』 インターネットからとった記事
--	---

2-5. 進級試験、卒業論文、卒業試験の有無

学士課程：卒業論文、卒業試験あり

修士課程：修士論文、卒業試験あり

博士課程：博士論文、卒業試験あり

2-6. スタッフ・教員

名前	ポスト	専門
Dr.habil.Mecsi Beatrix	学科長 docens	東洋美術史
Dr.Szabó Balázs	学科長補 adjunktus	思想史（江戸期）
Dr.habil.梅村裕子	adjunktus	歴史学、日ハ交流史、国際関係論
Dr. Papp Melinda	adjunktus	民俗学
Dr. Zentai Judit	adjunktus	医療史（江戸期）
内川かずみ	lektor	児童文学、日本語教育
小野久禎	lektor	言語学、日本語教育

その他、大学院生がクレジット取得の一環としてまた学校との契約により、BA授業の数コマを担当している。

2-7. 日本語・日本学関連図書数

約 10000 冊（古典文学、仏教関係が多い）

2-8 協定校

大阪大学、早稲田大学、青山学院大学、城西大学、城西国際大学、筑波大学、二松学舎大学、大谷大学、山口大学など。

3. 学生について

3-1. 各学年ごとの履修者数 (2016)

学年	BA 1	BA 2	BA 3	MA 1	MA 2	PhD
人数	65	44	48	7	2	12

(休学中の者を除く)

学期中に留学するなど数に変動している。

3-2. 日本、その他の国への留学状況

以下を合わせて毎年 10 名前後

- ・日本政府奨学金留学生 (日本語・日本文化研修留学生)
- ・日本政府奨学金留学生 (研究留学生)
- ・協定校等への留学

3-3. 卒業時の平均的な日本語レベル

学士課程：N 3 ～ N 2

修士課程：N 1

3-4. 卒業後の進路

- ・ハンガリー駐在の日本企業
- ・高等教育機関
- ・各地の高等学校
- ・語学学校の日本語講師
- ・中央省庁
- ・ハンガリーの商社、一般企業 (日本と関係を持つ企業)
- ・ハンガリーの日本関係公的機関
- ・日本での就職 (大使館、企業等)
- ・日本の大学への進学
- ・学内での進学
- ・他大学への進学

3-5. 日本語学習の動機

近年はサブカルチャー、アニメ・漫画をきっかけとして入学する学生が多いが、在学中に興味は多岐にわたるようになり、研究志向の者も増えている。伝統的に武術などから関心を持つ者もいる。

4. 学科の活動

4-1. 授業外活動

- ・ハンガリーを訪問する日本の先生方による講演会
- ・クラブ活動（書道）

4-2. 交流

前記の交流校へ留学生を送り出している。また随時シンポジウム、研究会の共同開催。現地教師会と連携しスピーチコンテスト等に参加する。

4-3. 研究活動

当校は研究大学として位置づけがされているので、教員は各自の専門テーマに従って研究を行い発表することが義務づけられている。その一環として学内で行われる研究集会に参加し発表する。学術書の出版（「ハンガリー・日本交流史論集」（2009年）など）

4-4. 日本からの留学生・教員受け入れ状況

4-5. 支援

基金の支援プログラムにより図書の出版や研究のための日本滞在、語学研修プログラム等。

5. 課題

5-1. 授業における諸問題

- ・日本語学術書の不足
- ・入学試験を独自に実施できないので1から語学習得をするが、卒論を書くための日本語文献を読みこなせるまで達するのが難しい。

5-2. 機関が過去抱えてきた課題、現在抱えている課題

5-3 他の大学と望む活動

今後は研究会など共同で行っていきたいと考える。